

五臓円ビル登録有形文化財

かつては街のシンボルだった鳥取市二階町2の五臓円ビルが11日、国の文化審議会で登録有形文化財に答申された。1931年建築。鉄筋コンクリート建築としては市内4番目で、現存する中で最も古。鳥取大火(52年)では内部を全焼したが外観は残った。焼け野原にぼつんと焼け残った姿が多くの市民の記憶に深く刻まれており、「国土の歴史的景観に寄与している」と評価された。県内の登録有形文化財は142件、鳥取市内では19件になる。

【大川泰弘】

五臓円ビルは3階建。クを招き、市内最高級とされた。名称は、施主の業商、森下家が「三心五臓円」という滋養強壮剤として保存、活用し、よつという機運が高ま

ことにちなむ。「近世復興式」という様式。丸みを帯びた2階、3階部分の角に大型の窓があったが、今は窓枠だけが残された壁になっている。イタリヤ産の大理石などを使い、当時としては抜群にモダンかつぜいたくな造りだった。3階のレストランは神戸のオリエンタルホテルからコッ

1952年の鳥取大火後、ぼつんと焼け残った五臓円ビル。鳥取市社会教育事業団刊「鳥取の災害」大地震大火災より



歴史的景観に寄与

鳥取市内19件目 国文審申答

り、6月には「五臓円ビルを保存活用する会」が発足。内部の見学会などが催された。し字カーブを描く側壁の最上部は、ごく短いひさしのような「蛇

腹」という装飾が施されていたが、落下のおそれがあるため撤去された。会はビルを買い取って耐震補強工事や修復を計画している。角の大窓と蛇腹を何らかの形で復元したい意向。買い取りも含め8000万円の経費を見込んでおり、募金活動を進めている。



国登録有形文化財に答申された五臓円ビル

鳥取市二階町2で

また、文化財登録を目標の一つ位置づけ、会を挙げて取り組んできた。常村代表は、答申は励みになる。鳥取大火は、まだ2歳だったので覚えてないが、鹿野町にある家からも夜空が赤く見えたとか、野原に残る五臓円ビルは、写真を見たり、話を聞いたりして、私の心にもすっかり刻まれていると話していた。